

第6 A (中) 分科会 一副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題―

提案主題 児童自立支援施設内学校における教頭の役割

～学校の特殊性をいかした学校経営と学園や関係諸機関との連携～

| | | |
|-----|-----------------|------|
| 司会者 | 大分市立大東中学校 | 山田晃世 |
| 提言者 | 大分市立竹中中学校二豊学園分校 | 甲斐洋治 |
| 助言者 | 大分教育事務所 次長兼指導課長 | 阿部宰士 |
| 記録者 | 大分市立竹中中学校 | 齊藤辰也 |

1 協議の柱

- ・組織力を高めるために教頭として何ができるか。

2 協議の実際

(1) 大分県立二豊学園と大分市立竹中中学校二豊学園分校（大分市立竹中中学校分教室）

- ・児童自立支援施設内分校としての取組
- ・学校運営の現状

(2) 教頭としての取組

- ・学園組織と分校組織の連携の在り方
- ・校内指導体制の整備
- ・責任の所在の明確化
- ・二豊学園分校の認知
- ・職員のメンタルケア

(3) 質疑・応答

- ・学園の中に二つの組織があり、教頭として組織をまとめるのは難しいと思うが？
職員室の半分が分校で、半分が指導課である。課長とはよく話ができている。また、保護者代わりである寮のリーダーとの連携も取れており、一生懸命やれば十分に理解、協力をしてもらえる。二つの組織が十分連携し合える「大分方式」の構築につとめたい。

3 指導助言

- ・二豊学園は児童自立支援施設であり、その施設で生活する児童生徒たちの保護者は学園長である。その二豊学園という組織の中にある学校組織として、竹中中学校二豊学園分校、竹中中学校二豊学園分教室はある。学園長の指導下にある職員が保護者の下でいろいろ働いているという捉えをして、教頭としての立場で、学校としてどうあるべきか、学校としてどういうふうに子どもたちと接して教育をしていくかという視点でレポートは書かれている。そこで預かる子どもたちの何を指すのか、今解決すべきは何なのかという、教頭としての職務機能を果たすための取組を是非学んで欲しい。併せて、大分市立竹中中学校二豊学園分校という学校の存在と、学籍の取扱いについての留意点を県内全ての学校が知っているようにすることが重要である。